



1996年ロカルノ国際映画祭3冠独占受賞 ◆グランプリ ◆最優秀男優賞:グレゴワール・コラン ◆最優秀女優賞:ヴァレリア・ブルーニ＝テデスキ

ネネットとボニ

「パリ、1846、夜。」のクレール・ドゥニ監督作品 グレゴワール・コラン / アリス・ウーリ ヴァレリア・ブルーニ＝テデスキ ヴィンセント・ギャロ 他 配給:キネティック K I N É M A
un film de Claire Denis avec Grégoire Colin Alice Houri Valéria Bruni-Tedeschi Vincent Gallo Jacques Nolot scénario Jean-Pol Fargeau et Claire Denis image Agnès Godard musique originale Tindersticks produit par Georges Benayoun
Une co-production DACIA FILMS et LA SEPT CINÉMA avec la participation du CENTRE NATIONAL de la Cinématographie et de CANAL+

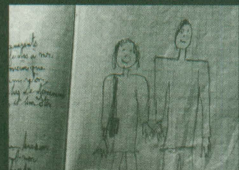
それは子宮の海を漂うような優しさ。



NÉNETTE et BONI

世界中のジャーナリストが大絶賛!! また一つ、映画史上に新しい愛の名作が誕生した。

◆信じられないほど肉感的な演出。【ル・モンド】 ◆最初は孤独の囚われ人だった兄と妹が、影響を及ぼしあい、愛しあい、強い絆で結ばれる姿が感動を呼ぶ。【ポジティブ】 ◆彼女の世代ではドゥニが最も才能ある監督であることを確信した。【スクリーン】 ◆肉体をなめるような滑空飛行の撮影の素晴らしさ。【カイエ・デュ・シネマ】 ◆ひとりの男と新生児を撮影するというシーンから溢れるような感情が生まれた。【ル・フィガロ】 ◆グレゴワール・コランがお漏らしする赤ん坊を抱く聖母となり、突然、崇高な輝きを帯びる。【リベラシオン】



ネネットとボニ

NÉNETTE
et BONI

1996年ロカルノ国際映画祭3冠独占受賞 ◆金豹賞(グランプリ) ◆最優秀男優賞(グレゴワール・コラン) ◆最優秀女優賞(ヴァレリア・ブルーニ・テデスキ)



◎ビューティフル!「ヴィム・ヴェンダース」
私はクレール・ドゥニにインスパイアされた。
「トム・ウエイツ」
◎彼女の作品を見続けてきて良かった。(永瀬正敏)

ボニは19歳、母が残した小さな家に一人暮らし。
ある日、妹のネネットがやってくる。彼女は15歳、幼い体に小さな生命を宿していた。

前作『パリ、18区、夜。』で熱烈なファンを生んだクレール・ドゥニ監督の待望の最新作『ネネットとボニ』は、両親の離婚によって引き離された兄と妹が、互いに反発し、傷つけあいながら、心のどこかで求めあう姿を繊細に描き出し、観る者を深い感動で包み込む。舞台は犯罪が日常化している港町マルセイユ。愛する母親の死後、移動ピザ屋で生計を立て、一人で暮らすボニ。小さなウサギを飼い、毎晩、豊富な肉体のパン屋の女房を犯すことを夢みている。そんなボニの聖域に寄宿学校を脱走して突然転がり込んできた妹の存在は何かと彼の気に障る。しかし、ネネットが妊娠していることを知った時から、不思議な温もりが彼の心を満たしていく。そして次第に育まれていく胎児への愛情が、ボニを驚くべき行動に走らせる…。J・P・メルヴィルの『恐るべき子供たち』(49)や、成瀬巳喜男の『あにいうと』(53)、フレディ・ムーラーの『山の焚火』(85)、など、兄妹や姉弟をテーマにした映画史上の名作に名を列ねる新たな傑作の誕生である。

白いピザの生地、ウサギの毛、ゆらめく朝の光、寝起きのままのシート…。
まるで顔を埋めてまどろみたいような優しさに満ちた触覚的で官能的な映像世界。

ブルーの青い反映のなかに深紅のTシャツ姿のまま浮かび、豊かな黒髪を水に漂わせているネネット。この美しい冒頭シーンは、映画全体のテーマをさりげなく象徴している。すべてを優しくつつみ込み、漂う水、羊水、母性…。光、音、匂い、肌触りといった感覚的要素まで脚本に書き込むというドゥニの演出は、大きな母性のテーマを観客の五感を通してうたえる。ボニの性的妄想を官能的な映像で捉え、対象をなめるようなカメラワークを見せるのは、ドゥニ作品には欠かせない撮影のアニエス・ゴダール。漂うような雰囲気音楽面を支えているのは、カルト的な人気を誇るイギリスのバンド、ティンダースティックス。彼らの手掛けた『ネネットとボニ』のオリジナルサントラはヨーロッパで名盤になっている。

一つの頂点を極めた最高の演技!「グレゴワール・コランの演技はケタはずれだ!」ヴァラエティ

不器用に妹をいたわるボニの優しさや、複雑な心の変化を見事に演じているのは『オリヴィエ オリヴィエ』(92)『ピフォア・ザ・レイン』(94)など、母性本能をくすぐる神秘的なマスクで日本にもファンの多いグレゴワール・コラン。250年続くという俳優一家の血はこの映画で完全に開花し、ボニ役は彼自身「一つの到達点」と自負している。共演のネネット役には、アリス・ウーリ。15歳にして驚くほど自立し、妊娠の事実にもうたえないクールなネネット役を、彼女は自然体で見事に演じきった。エロスの象徴のような豊富な肉体のパン屋の女房役に『おせっかいな天使』(93)のヴァレリア・ブルーニ・テデスキ、パン屋の主人に『アリゾナ・ドリーム』(93)などで不思議な男の色気を発散する俳優ヴィンセント・ギャロ他、脇を固める俳優陣も個性派揃い。

グレゴワール・コラン/アリス・ウーリ/ヴァレリア・ブルーニ・テデスキ/ヴィンセント・ギャロ
監督・脚本:クレール・ドゥニ/共同脚本:ジャン＝ポール・ファルジョー/撮影:アニエス・ゴダール/音楽:ティンダースティックス/製作:ジョージ・ベナユン
1996年/フランス映画/Dacia Films - La Sept
Cinéma製作/1時間43分/カラー/ウィスタサイズ(11:1.66)
配給:キネティック K I N E I S I Q U E

11/14(土)より待望のロードショー!!

特別鑑賞券1500円好評発売中!!

※12月11日(金)まで

(当日/一般1800円、大高生1500円、中・小・シニア1000円)

●特別鑑賞券は、シネ・ヌーヴォ(九条/梅田)窓口およびチケットぴあ、チケットセゾン、各プレイガイドにてお求めください。

シネ・ヌーヴォ(九条/梅田)劇場窓口で、特別鑑賞券をお求めの方に、オリジナル・ポストカードを限定プレゼント中!

12:30 2:35 4:40 6:45

※11/20(金)PM.6:45の回は休映。

シネ・ヌーヴォ

地下鉄中央線「九条駅」6番出口下車
大阪ドーム方向へ徒歩2分

TEL06-582-1416

